

研究課題の名称

大腿膝窩動脈病変を有する閉塞性動脈硬化症患者に対するステントグラフト留置後血栓性閉塞に対する治療法に関する多施設・後向き研究

研究の目的及び意義

本研究の目的は、大腿膝窩動脈(FPA: femoro-popliteal artery)の病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症 (PAD: peripheral artery disease) 患者に対し、カバドステント(VI ABAHN)を用いた血管内治療(EVT : Endovascular Therapy の後に VIABAHN が血栓性閉塞した患者に対して行った様々な治療後の臨床経過を明らかにすることである。本研究を実施することにより、VIABAHN 留置後血栓症の臨床経過、再治療成績およびその成績に関連する因子の詳細が明らかとなり、本研究で得られた知見は、今後の PAD 診療に大いに役立つものと考ええる。

研究対象者の選定方針

FPA 病変を有する症候性 PAD に対して、2019 年末までに VIABAHN が留置され、血栓閉塞した症例

研究予定期間承認日 (2020 年 3 月 12 日) から西暦 2020 年 12 月 31 日